



I 第18週の発生動向 (2026/4/27~2026/5/3)

1. 水痘について、中南保健所管内の注意報が解除となりました。
2. 日頃から手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「腸管出血性大腸菌感染症」です。

最終ページに掲載しています。

II 第18週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報。「空欄」：患者報告無し。

	東青 (東津軽+青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週からの増減	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		
急性呼吸器感染症	インフルエンザ	13	1.18	8	0.89			8	1.33	4	0.44	2	0.33	35	0.69	-18
	新型コロナウイルス感染症	11	1.00	1	0.11	10	1.00	17	2.83	5	0.56	4	0.67	48	0.94	-10
	急性呼吸器感染症	742	67.45	420	42.00	492	49.20	389	64.83	338	37.56	401	66.83	2782	53.50	150
小児科	R Sウイルス感染症	1	0.17	2	0.33	5	0.71	3	0.60	1	0.17	2	0.50	14	0.41	-5
	咽頭結膜熱	5	0.83			5	0.71					1	0.25	11	0.32	-4
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30	5.00	20	3.33	22	3.14	11	2.20	13	2.17	8	2.00	104	3.06	16
	感染性胃腸炎	15	2.50	25	4.17	21	3.00	41	8.20	5	0.83	2	0.50	109	3.21	13
	水痘			3	0.50	1	0.14			1	0.17			5	0.15	-6
	手足口病															-6
	伝染性紅斑															0
	突発性発しん	5	0.83	1	0.17	3	0.43	1	0.20	4	0.67			14	0.41	8
	ヘルパンギーナ															0
	流行性耳下腺炎	1	0.17											1	0.03	-1
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎															-1
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)									1	1.00			1	0.17	1
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎							1	1.00			3	3.00	4	0.67	4
	無菌性髄膜炎															0

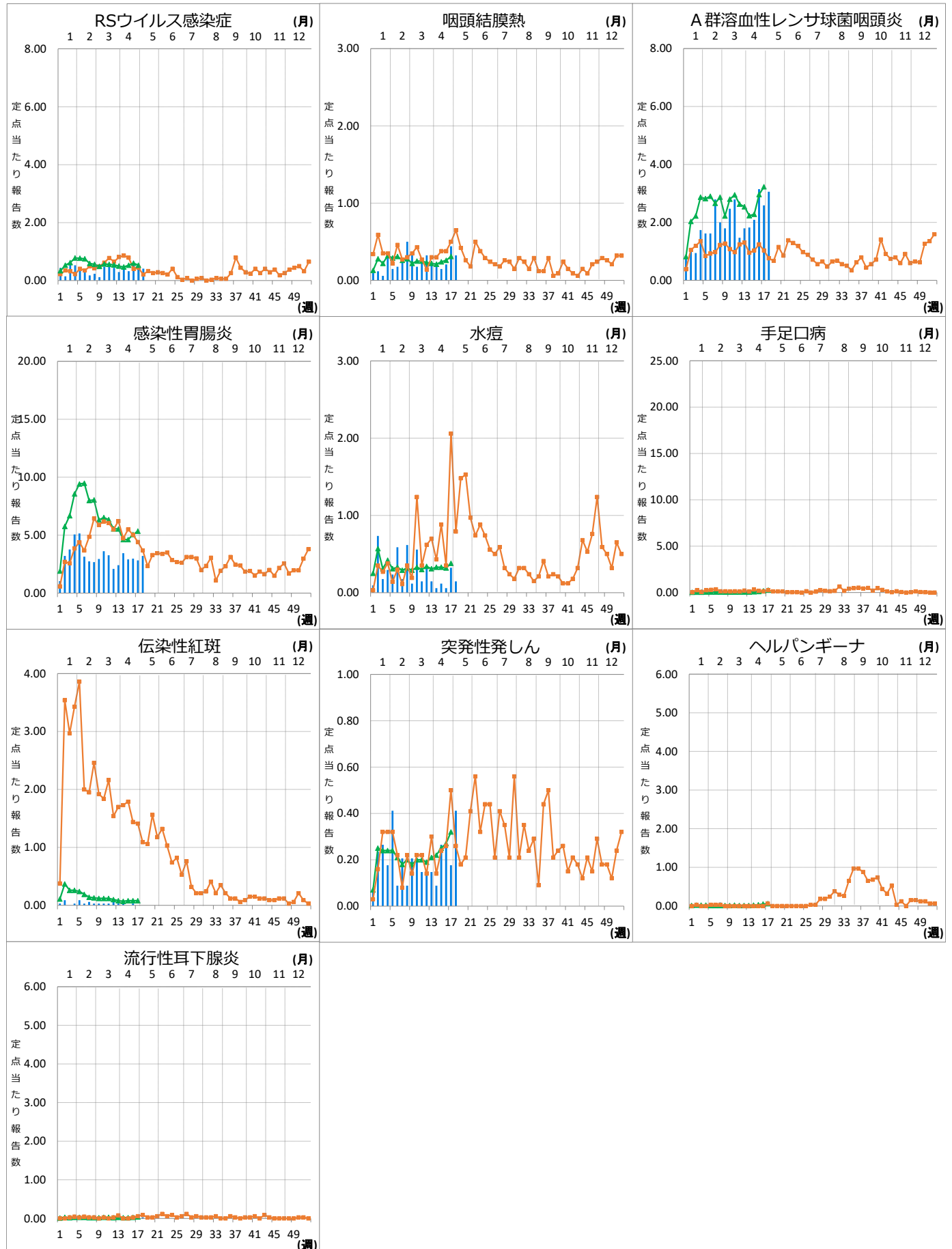
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第18週、ただし全国は前週)

グラフの説明 ← は2026年青森県、■は2025年青森県、▲は2026年全国



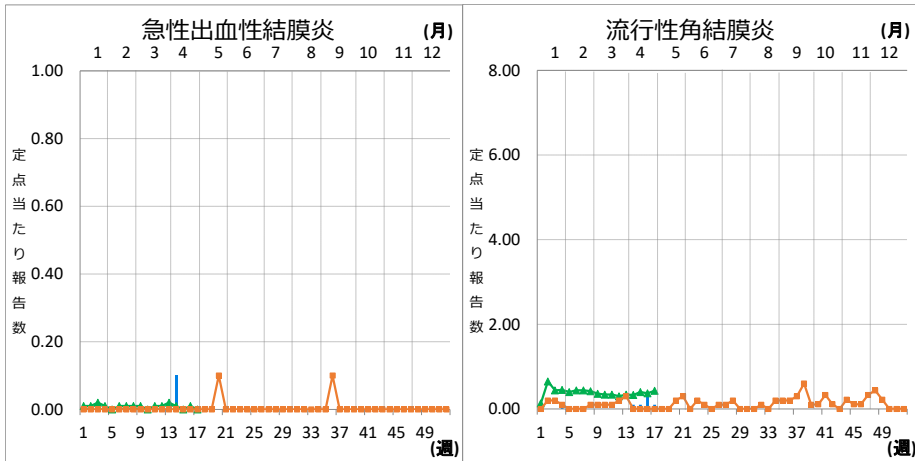
IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026年第18週、ただし全国は前週）

グラフの説明  —■—は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



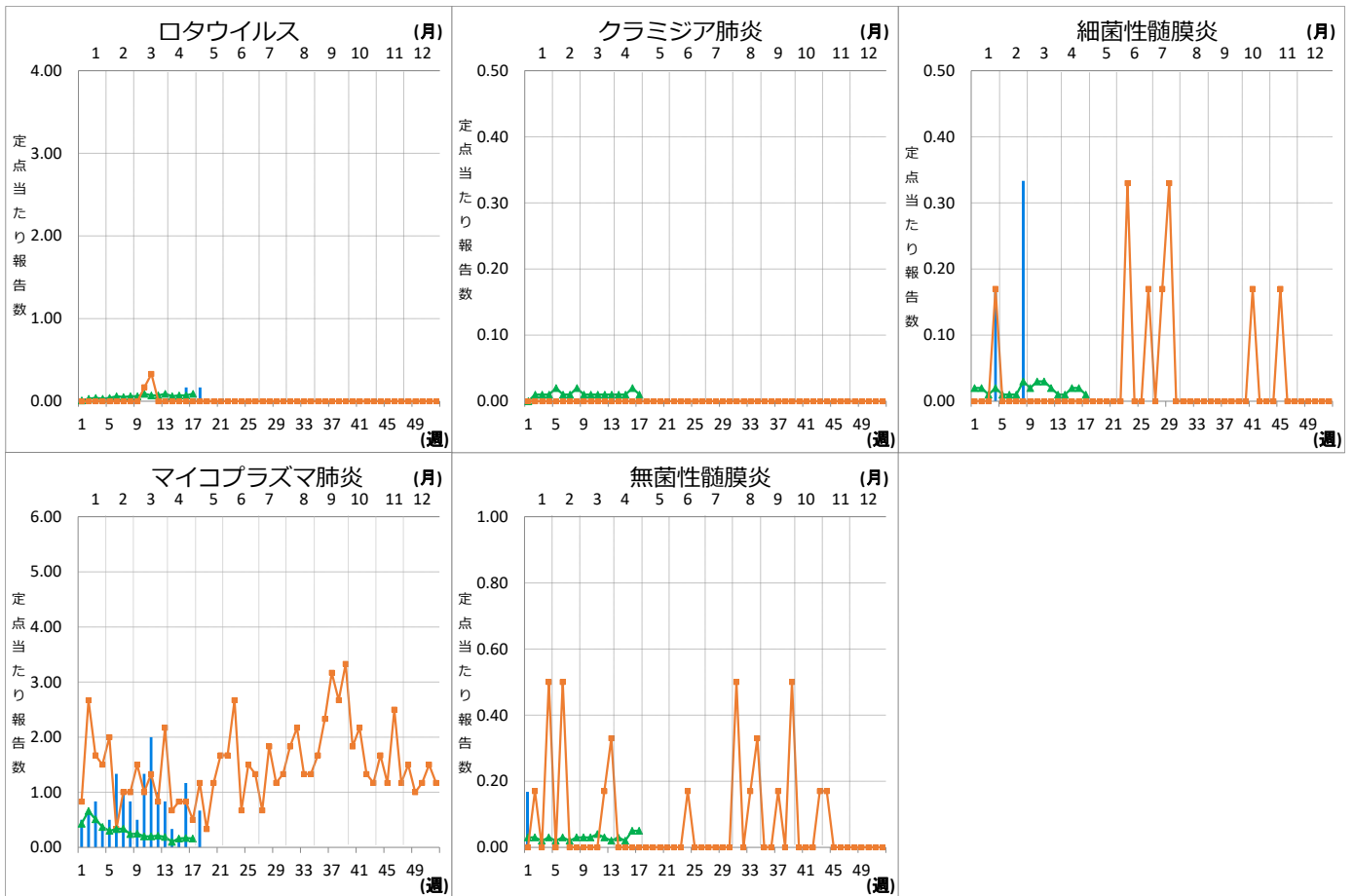
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026年第18週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、 ■ は2025年青森県、 ▲ は2026年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026年第18週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、 ■ は2025年青森県、 ▲ は2026年全国



Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026年第11週～18週)

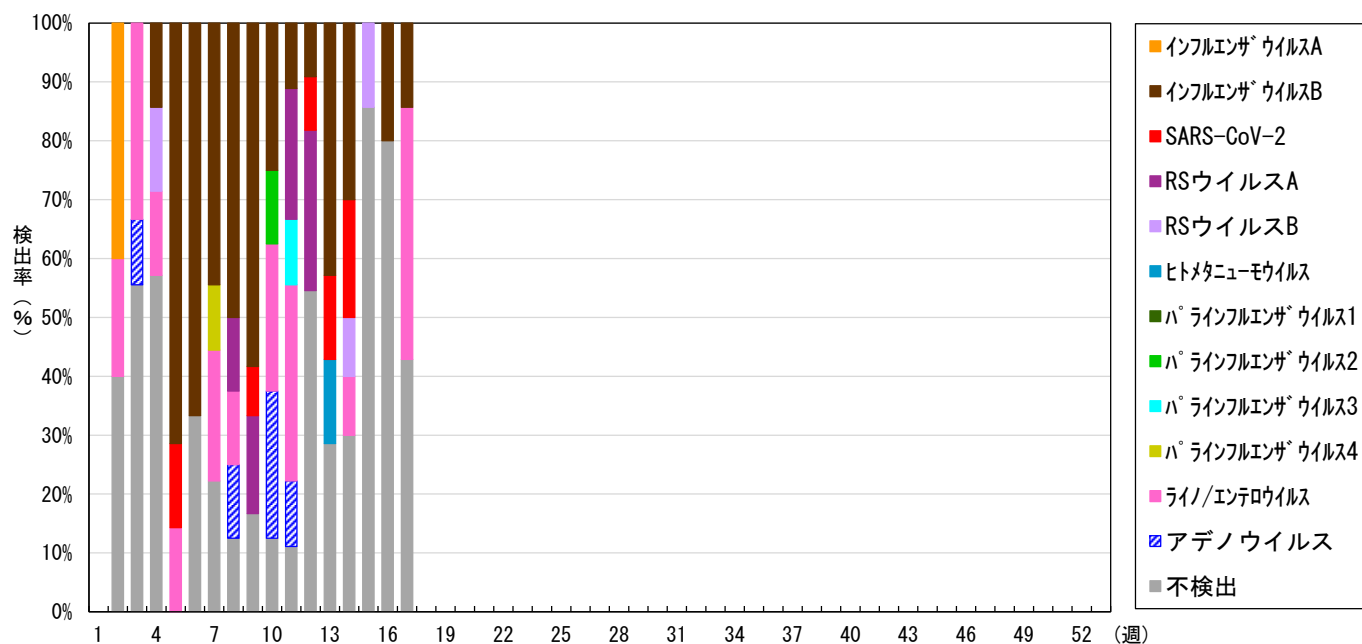
急性呼吸器感染症	2026年							
	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週
提出検体数	6	10	7	10	7	5	7	7
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	0
インフルエンザウイルスB	1	1	3	3	0	1	1	1
SARS-CoV-2	0	1	1	2	0	0	0	0
RSウイルスA	2	3	0	0	0	0	0	0
RSウイルスB	0	0	0	1	1	0	0	0
ヒトメタニューモウイルス	0	0	1	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス3	1	0	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	0	0	0
ライノ/エンテロウイルス	3	0	0	1	0	0	3	3
アデノウイルス	1	0	0	0	0	0	0	0
不検出	1	6	2	3	6	4	3	3
検査待ち	0	0	0	0	0	0	1	7

※第11週に提出された検体のうち、RSウイルスA、パラインフルエンザウイルス3、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第12週に提出された検体のうち、SARS-CoV-2及びRSウイルスAが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第17週に提出された検体のうち、インフルエンザウイルスB及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2026年第1週～17週)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第 18 週）

- ・ 結核（二類感染症）：八戸市 1 人、下北 2 人 (2026 年計： 27 人)
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）：上北 1 人 (2026 年計： 7 人)
- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症（五類感染症）：中南 1 人 (2026 年計： 6 人)
- ・ 梅毒（五類感染症）：青森市 1 人 (2026 年計： 6 人)
- ・ 百日咳（五類感染症）：八戸市 1 人 (2026 年計： 18 人)

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026 年第 15 週～2026 年第 18 週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
15		侵襲性肺炎球菌感染症1人 梅毒1人	百日咳2人		腸管出血性大腸菌感染症1人 梅毒1人	
16	結核1人	侵襲性肺炎球菌感染症1人	アメーバ赤痢1人 百日咳1人	結核1人		
17	梅毒1人	結核2人 侵襲性肺炎球菌感染症1人	百日咳1人		結核1人	結核1人
18	梅毒1人	劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人	結核1人 百日咳1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	結核2人

第 17 週に中南保健所管内で侵襲性肺炎球菌感染症 1 人の届出がありましたので追加しました。

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2026年第1週～第17週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムポックス	オウム病
累積報告数	4400	28	627	9	5	217	69	6	45	1

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類
疾病名	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢
累積報告数	2	18	41	28	26	1	10	536	3	155

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症
累積報告数	62	313	8	150	4	57	489	278	12	172

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	多剤耐性緑膿菌感染症	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん
累積報告数	22	1054	241	20	3502	63	29	32	2554	1

分類	五類	五類
疾病名	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
累積報告数	436	6

青森県（2026年第1週～第18週までの累計）

分類	二類	三類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	アメーバ赤痢	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)
累積報告数	27	7	3	1	2	6	1	4	8	6

分類	五類	五類
疾病名	梅毒	百日咳
累積報告数	6	18

XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

Ⅷ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026年第18週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第18週	介護・老人福祉関係施設	13	中南保健所
第18週	児童・婦人関係施設等	13	西北保健所

2026年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)
		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18週	19週	20週	21週	22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	6	2	1										13
	発症者数	37	44	69	23	13										186
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	1	3	1										9
	発症者数	92	0	30	73	13										208
障がい関係施設	件数	1	0	1	0	0										2
	発症者数	20	0	18	0	0										38
その他施設	件数	0	0	0	0	0										0
	発症者数	0	0	0	0	0										0
計(月別)	件数	7	2	8	5	2										24
	発症者数	149	44	117	96	26										432

感染症の窓

家畜や人の腸内にも存在する大腸菌のうち、いくつかは人に下痢等の消化器症状を引き起こすものがあり、その中でさらにベロ毒素を産生し、出血を伴う腸炎等を引き起こすものを腸管出血性大腸菌といい、この菌による感染症を腸管出血性大腸菌感染症といいます。

症状の一般的な特徴は腹痛、水様性下痢及び血便で、嘔吐や高熱を伴うこともあります。さらに、ベロ毒素の作用により溶血性貧血、急性腎不全となり、溶血性尿毒症症候群（HUS）を引き起こすこともあります。

2021～2025年までの過去5年間における県内の月別累積報告数は図のとおりです。一般に腸管出血性大腸菌感染症は初夏から初秋にかけて発生しやすいといわれており、本県でも、5月から報告数が増え始め、8月にピークとなる傾向が見られます。これからの時期は腸管出血性大腸菌をはじめとする食中毒菌が増えるのに適した気候となりますので、十分な注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症の予防には、食肉の十分な加熱調理、生肉を取扱う器具と他の器具の使い分け、二次感染防止のための手洗いと消毒が大切です。特に、こどもや高齢者、抵抗力が弱い方は、重症化することがありますので、ご注意ください。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。☞[腸管出血性大腸菌Q&A\(厚生労働省HP\)](#)



腸管出血性大腸菌感染症

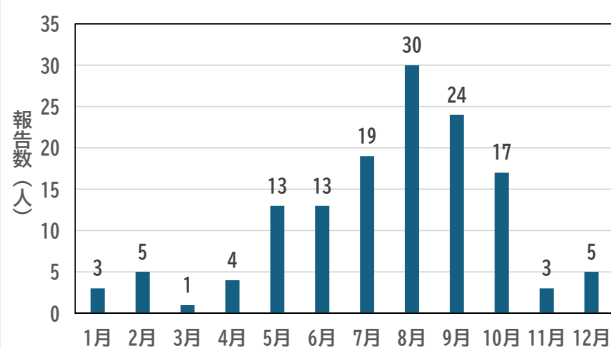


図 県内の月別累積報告数 (2021～2025年)